

02

話題提供者

北海道旭川東高校
2020年度卒業生
松井はな

まつい・はな まちおこしやコミュニティーづくりにかかわる仕事に興味を持っている。2020年の臨時休業中は、起業家やNPO団体などオンラインで積極的に交流した。

生徒と教師が「ともに学びをつくる」学校へ

先行きの見通せない臨時休業下、それまでのあたり前であった学校生活から離れた中で、生徒と教師はお互いのあり方について思いを巡らせました。そうして、それぞれが考えた生徒と教師の関係、教師の役割について、リレー形式で深めていきます。今回は、2020年度卒業生の声に、次回は教師の声に耳を傾けます。

見えないものに気づく
それが学びだ

高校生活最後の1年は、新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休業で幕を開けました。学校再開後、中止を余儀なくされた行事もありましたが、それでも、私の高校生活はとても楽しく、充実していました。もしかすると、今まで以上に、だったかもしれません。それは、臨時休業を経験したことで、学校でみんなと一緒に勉強することの価値に私が気づいたからだと思います。学校でのいろいろな時間を大切にできるようになり、あまり話したことがなかった人にも積極的に声をかけるようにしました。いつまた休業になるか分からないからこそ、今自分の前にある奇跡のような時間をめいっぱい楽しみ、友人と高め合いたい……そんな気持ちになったのです。自分が見えていないもの、特に、身近にあるのに見えていなかったものに気づくことができたのは、この1年間での私の最大の成長かもしれません。

日常だと思っていたものが日常ではなくなったことで、私は、あたり前とは実はありがたいことだったのだと思い知らされ、見えていなかったものに気づきました。そうした気づきは、学校の学びでも得られるものだと私は思います。私は、臨時休業中にオンラインでいろいろな年齢、職業の人の話を聞く機会を得ましたが、その時に、学校で学んだことがつながったり、新しい見方や考え方を身につけたりする感覚を味わいました。ただ先生の話聞き、教えられたことを覚えるのではなく、学校で得た知識を手し、学校の外に出て、いろいろなものを見て、いろいろな人と話すことで、思っていなかったことが見えるようになるのだと思います。それこそが学びなのではないでしょうか。

先生と生徒が
対等に話し合っ
て学校を変えていく

私は、これからの先生と生徒の関係は、もっと対等になった方がよいと思うようになりました。もちろんそれは、先生を下に見るなどということではありません。社会経験が豊かで、教科の専門家である先生から教わることはたくさんあり、それはこれからも変わらないでしょう。その上で、学校、教室という同じ空間を共有している者同士として、その場をもっとよい場にするためにはどうすればよいか、対等に話し合っていけばよいと思うのです。例えば、臨時休業中のインターネットを活用した授業は、そのあり方や進め方を私たち生徒と一緒に考えることで、もっとよいものにできたかもしれません。また、学校外の人たちと交流しながら、授業で得た知識を実際に活用していくような新しい学びも、先生と生徒がアイデアを出し合うことでよりよいものができると思います。先生は、生徒と一緒に学びの空間をつくるという気持ちで、そして、生徒は、学んだことを生かす場を自分でつくろうという気持ちで、お互いに向き合っていければよいのに、と思うようになりました。そもそも、科学技術が急速に発展・成長する時代、大げさに言えば、学校はIT業界と同じくらいアンテナが高く、進化が早い世界であるべきです。ICTを整備するお金が十分でないなど、課題があることは分かっていますが、学校を進化させるために工夫できることはたくさんあるはず。いろいろな変化をスポンジみたいにたくさん吸い込んで、積み木みたいに自在に形を変える学校であってほしいし、そうなれば、授業はもっと変わると思います。

変化することは
怖いことなのか

未来の学校では、教室のような決まった場所に生徒はとどまることなく、学校外のような人と連携をしながら、自分で物事の本質を探っていく学びがあたり前になるかもしれません。私が卒業した学校にも、卒業生や社会人から定期的にオンラインで話を聞き、考えを述べ合う時間がありました。ただ、それも放課後の取り組みで、授業の形はコロナの前後でまだ大きくは変わっていません。なぜ、先生と生徒の関係、学校での学び方が変わらないのでしょうか。先生も生徒も、変わるのが怖いのかもかもしれません。今までと同じ学びなら、それぞれの学校としての実績があるので、どんな成果が得られるかを予想できますが、新しい学びになると、過去の実績からでは成果が予想しにくくなってしまふからです。私も、学校での学び方がいさなり変わってしまったら、志望大学に合格できる力が身につくのか、不安に思ったはず。私が卒業した学校の生徒の多くは、大学進学を希望しますから、生徒の希望進路の実現を一番考えてくださる先生方の気持ちは本当にありがたいです。でも、先生と生徒の関係、学校での学び方は変わらなくてもよいのかと言えば、やはり少しずつでも変わってほしいと思うのです。「学校はもっと変わるべきだと思う」と、友人や先生とも話すこともありましたが、変わりそうだった学校は、1年経っても思ったほどには変わりませんでした。それでも私は変わるべきだと思っています。